

創
立：1980年(昭和55年)1月10日
会
長：関谷 俊征
幹
事：鈴木 淑久
広報委員：鳥山 政明
例
会
日：毎週木曜日 PM12:30～
会
場：ビルト名古屋

事
務
局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F
T E L：052-211-3803
F A X：052-211-2623
M A I L：27601nagoya@mizuho-rc.jp
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

2019-20年度
名古屋瑞穂ロータリークラブ
会長のテーマ
「50年に向けて新たな第一歩、
会員相互の理解を深めよう！」

2019-20年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリーは世界をつなぐ
(ROTARY CONNECTS THE WORLD)



ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

WEEKLY REPORT

第1911回例会

～平和と紛争予防 紛争解決月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2020年2月27日(木) 晴 第29回 西名古屋分区 IM

西名古屋分区IM

2月27日(木)に開催を予定しておりました、2019-20年度西名古屋分区IMの開催を、誠に遺憾ながら中止と決断をさせて頂いたことをお知らせいたします。今般の新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、参加者および関係者の健康・安全面を第一に考慮した結果、開催を取りやめることと致しました。

例会のご案内

- | | | |
|---------|----------|----------|
| ■今週の行事 | 3月5日(木) | R規定により休会 |
| ■次週の行事 | 3月12日(木) | R規定により休会 |
| ■次々週の行事 | 3月19日(木) | R規定により休会 |

ナイジェリアでポリオ根絶に向けた画期的進展

8月21日、ナイジェリアでは野生型ポリオウイルスによる症例が最後に報告されてから3年が経過しました。これにより、来年には世界保健機関(WHO)アフリカ地域全土がポリオフリーとして宣言される可能性があります。

ナイジェリアでのこの画期的進展は、国内外からの資金、何千人もの保健従事者による尽力、北部での情勢不安によりこれまでワクチンを届けることができなかった地域での予防接種戦略も含め、各方面での努力が実を結んだ結果です。

ロータリーのインターナショナル・ポリオプラス委員長であるマイケル K. マクガバン氏は、次のように述べています。「ロータリー、世界ポリオ根絶推進活動のパートナー、ナイジェリア政府は、予防接種と疾病検知システムを強化してきました。ナイジェリアでこれまでワクチンを届けるのが困難だった地域で、より多くの子どもたちに予防接種ができるようになりました」

ナイジェリアのロータリー会員が重要な役割を果たしていると述べるマクガバン氏は、「ロータリアンはポリオ根絶への認識向上、政府へのアドボカシー、安全な水を危険な地域にもたらすといった補足的な基本的保健ニーズへの取り組みにも尽力した」と話します。

ナイジェリアは、アフリカ最後のポリオ常在国です。アフリカで野生型ポリオウイルスの根絶が認定されれば、WHOの6地域のうち5つにおいてポリオフリーが達成されることとなります。同じく野生型ポリオウイルス常在国であるアフガニスタンとパキスタンでは、ウイルスの伝搬が現在も阻止されていません。

ロータリーのナイジェリア全国ポリオプラス委員長であるツンジ・フンショ氏は、ナイジェリアでの達成を評価しつつも、ロータリー会員が祝賀するには時期尚早であると警鐘を鳴らしており、ナイジェリアですべての子どもに定期的な予防接種を実施することが引き続き課題であるとしています。

フンショ氏は次のように述べています。「ナイジェリアに野生型ポリオウイルスが再び持ち込まれないようにすることが、極めて重要です」

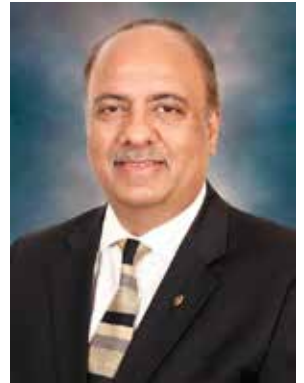
そのためには、ロータリーによる積極的なアドボカシー活動と予防接種キャンペーンへの認識向上を継続し、ロータリー会員が引き続き募金を行うことが必要であるとフンショ氏は話します。ロータリーはこれまで、ナイジェリアにおけるポリオ根絶活動に対し、2億6800万ドルを寄付しました。

「ポリオのない世界を夢見た最初の団体として、ロータリーはこの約束を守ることに献身しています」とマクガバン氏。「ナイジェリアでの進展はこの目標への大きな前進ですが、パキスタンとアフガニスタンでも同様の進展が見られるように、活動の勢いを保たなければなりません」

10月24日の世界ポリオデーにポリオ根絶活動への支援を募り、認識を高めましょう。ポリオのない世界の実現のため、皆さまからのご支援をお願いいたします。



国際ロータリー会長指名委員会は、カルカッタ-マハナガル・ロータリークラブ(インド、西ベンガル州)所属のシェカール・メータ氏を2021-22年度国際ロータリー会長に選出しました。対抗候補者がいない場合、同氏は10月1日に会長ノミニーとして宣言されます。



2021-22年度国際ロータリー会長に選出されたシェカール・メータ氏

メータ氏は、現在の会員傾向には課題があり、会員増強がロータリーの最優先事項となるべきであると述べています。

地域的な計画、ローターアクターのロータリークラブへの移行、多様性と女性会員の増加によって、毎年5パーセントの会員数純増が達成できると確信しています。

「世界の各地域に合った効果的な解決策を模索するため、大規模なブレインストーミングが必要です」とメータ氏。さらに、地域的な解決策を引き出すためには、各地域の価値観や文化を念頭に入れるべきとし、「1つのやり方をすべてに適用することはできない」と話します。

また、ロータリーが新しい地域や国に拡大していくことができると考えています。

ロータリーの戦略計画の一部として、クラブが行動計画を用いることを奨励すると共に、ロータリーの中核的価値観を強化する計画です。

メータ氏はさらに、政府や企業とのパートナーシップ、ロータリーの重点分野を専門とする組織とのパートナーシップ拡大、テクノロジーへの投資に焦点を当てることで、ロータリーがより現代化し、適応力を高める必要があると述べています。

メータ氏は、自身が設立した不動産開発会社「Skyline Group」の会長で、会計士でもあります。

また、カナダを本拠とする「Operation Eyesight Universal (India)」のディレクターも務めています。

災害救援活動に積極的に参加してきたメータ氏は、シェルターボックス(英国)の理事です。2004年に発生したインド洋での津波の後、被災者のための約500戸の家の建設を支援しました。

南アジアで1,500件以上の心臓外科手術を提供したプログラムを立ち上げたメータ氏は、インド全土での識字率向上をはかる「TEACHプログラム」の創設にもかわり、このプログラムを通じて何千もの学校に支援を提供しました。

1984年にロータリーに入会したメータ氏は、RI理事、複数の委員会の委員および委員長、ゾーンコーディネーター、研修リーダー、ロータリー財団専門家グループメンバー、地区ガバナーを歴任したほか、インド・ロータリー財団の会長を務めています。

超我の奉仕賞、ロータリー財団功労表彰状、特別功労賞を受賞しており、ラシ夫人と共にメジャードナー、遺贈友の会の会員です。